

脱炭素・ニューノーマル時代に求められる理想形 太陽光発電・蓄電池×免震工法が 織りなす次世代スマートハウス

「強くて優しい住まい」で、しあわせな未来を創造する。脱炭素・ニューノーマル時代に求められる理想形とは。太陽光発電・蓄電池×免震工法でスマートハウスを展開するインベックス(本店:東京都杉並区、資本金:1000万円、齊藤健二社長)の次世代住宅を詳解する。



免震工法+高断熱・高气密を標準化 安心・安全な住宅はあたりまえ

同社は東京都杉並区に本店を構える住宅・不動産事業者。大手分譲系ハウスメーカーで研鑽を積んだ齊藤社長が立ち上げた。建築設計のプロフェッショナル集団である。建売・分譲住宅を中心に年間50棟を供給している。20数年前に書き上げた自身の卒業論文に次世代住宅の普及を夢見て走り続けてきた。曰く「安心して長く住める住まいの提供をめざし2015年の創業以来、お客様とその家族の命を守るという強い想いを込めた住まいづくりを追究している」という。

一邸一邸の細やかなこだわりは随所に。基礎下に『スーパージオ』と呼ばれる部材を敷き込むことで震度5以上の減震効果や液状化対策を図るなど地震に強い構造、高性能で細かな部分も隙間なく充填できるウレタン発泡断熱材と結露に強い樹脂アングル窓を用いた高断熱・高气密な躯体をベースとした住宅を実現。このほか“時短・家事らく”を標準的に組み込み、キレイな水と画期的な入浴装置で家族の健康と美容にも配慮するなど「建てるのがゴールではなく、建てた後もお客様が『心丈夫』であることがゴール」との想いを語る。「東日本に激震が走った2011年3月11日。自分自身も大きな揺れを経験し、咄嗟に家族を


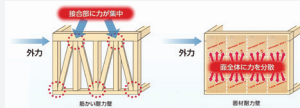

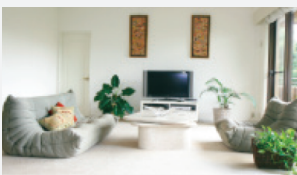
心配に思い、不安に駆られました。その際に、住まう人の安心と安全こそ、家づくりに最も大切なことと気づかされ、理想の家を建てるために、学びや経験を重ね、建築業界全体をリードすべく日々精進していきます」とアツい。

太陽光発電と蓄電池で脱炭素化 お財布にも優しい

世相はカーボン・ニュートラル、脱炭素化の号令が目覚ましいが、同社では北米大手太陽光パネルメーカーであるカナディアン・ソーラー製、我が国を代表する世界大手電子部品メーカー、村田製作所製の蓄電池を組み合わせたス

INSIGHT BASE 20年保証付新築免震住宅

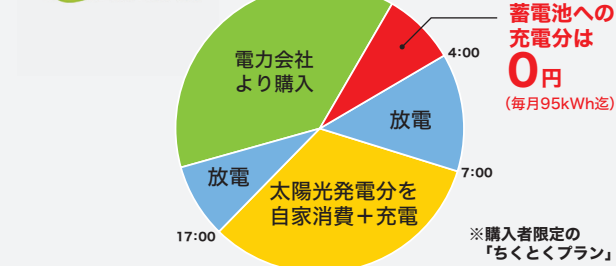
ワンランク上を目指した設備仕様、インベックスの新築住宅とは？

スーパージオ工法	安心	高断熱・高气密	空間
	地震・台風にも強い安全な家！ 	冷暖房効率の高い省エネ住宅に！ 	
基礎下にスーパージオ部材を敷き込み、地震波を「いなし」キラーパルスを生み出さない。震度5以上の減震効果により被害を最小限に「減災」。	木造住宅では地震や台風に対して、耐力壁で支えます。筋交い耐力壁に比べ、IB耐震パーティクルボードは水平方向の力を面全体に分散して受け止めて抵抗します。	ウレタン発泡断熱材を使用し、住宅全体を隙間なく覆うことで気密性や遮音性を向上させ快適な室内環境を保ちます。気密性が高まり、家中の冷暖房効率の向上が期待できます。	壁倍率が高いと設計の自由度が増し、空間を広く、大きな窓をとることができます。将来の間取りの変更にも対応でき、採光に優れた明るい室内が作れます。

村田製作所 All-in-One 蓄電池システム



カナディアン・ソーラー太陽光パネル
停電時の安心や自家消費による“お財布にも優しい”スマートエネルギーシステム



※右記表記金額は、シミュレーション結果を基に太陽光+蓄電池の導入効果を試算した金額ですがあくまで目安であり、お客様の使用方法、再生エネルギー賦課金/燃料調整費の変動により、表記金額の通りにならない事をご了承ください。燃料調整費/2022年2月の値 再生エネルギー賦課金/2021年5月の値を元に試算してあります。試算条件●地域:東京都●電気使用量:3人家族モジュール400kWh/月(出典:東京都環境局)にて試算●現行電気契約プラン:東京電力エナジーパートナー従量電灯B 50A / 400kWh/月●変更後電気契約プラン:HTBエナジーちくとくプラン東京05●太陽光:余剰売電(2022年度単価17円/kWhで試算)、年間発電想定5393kWh●蓄電池:蓄電池定格容量3.5kWh

太陽光+蓄電池 導入前

11,965円/月
(使用量約400kWh/月)

太陽光+蓄電池 導入後

1,586円/月
※売電収入を差し引いた額

月10,379円の削減へ

マートエネルギーシステムを搭載。ゼロエネだけでなく停電時の安心や自家消費による“お財布にも優しい”提案に努めている。「黒を基調としたデザイン性、高出力・高効率の太陽光発電パネルと、設置自由度を考慮したコンパクトで施工性の高い国産蓄電池を採用することで、太陽光発電でつくった電気をため、夜間や非常時にも発電した電気が使えます。特に村田製作所製は他社のモノと比べインシナルコストが安く、都心エリアでも設置ができるなど高品質で且つ柔軟性が高いといった特徴があります。さらにお得な電気料金を提供するHTBエナジーの専用プランとの組み合わせることでお施主様の経済性が向上。月数千

円からの家計負担削減、経済効果もあります。これからの住宅は自分で作った電気を自宅で使う“自家消費”が当たり前になってくると考えられますが、これらスマートエネルギーシステムを搭載することで当社のコンセプトである『心丈夫』をさらに強化していける」と説明する。「近年、脱炭素・気候変動対策としての創・蓄・省エネニーズの高まりを感じています。太陽光設置義務化の流れもあり、狭小地が多い関東ではありますが喻え小容量であっても標準的に搭載させていきたい」との方針を語る。分譲を中心とする事業者のゼロエネ化、さらには耐震性を加えた住宅仕様はまだ進んでいないが「取敢て誰もチャレンジし

ない領域を開拓していく。住宅事業者として何が出来るか。免震住宅を通じて『持続可能な開発目標(SDGs)』の実現に貢献していきたい」と話していた。



インベックス
齊藤健二社長

